

がくらおが

(題字は初代学長 山田守英氏)

第 120 号

平成17年 3 月25日

編集 旭 川 医 科 大 学
教 務・厚 生 委 員 会
発行 旭川医科大学教務部学生課



旭川冬まつり (雪の動物園)

(写真撮影：学生課)

卒業生を送るにあたって……………八竹 直…………2	学生表彰……………11
第27期生を送るにあたって……………田中 達也…………3	助教授紹介……………鳥本 悦宏…………11
看護学科第6期生の卒業を祝う……………望月 吉勝…………4	助教授紹介……………今井 博久…………11
新カリキュラム初年度……………林 智志…………5	助教授紹介……………伊藤 善也…………11
卒業にあたって……………吉田 充彦…………5	平成16年度 1年のあゆみ……………12
卒業にあたって……………ハリラティエ パリザー…………6	クリスマスコンサート 4題……………14
医学科第27期卒業生名簿……………6	外国人留学生冬季交流事業……………14
卒業にあたって……………稲葉美貴子…………7	各種保険について……………15
卒業にあたって……………水木 志保…………7	博士学位記授与式……………15
看護学科第6期卒業生名簿……………8	平成17年度日本学生支援機構奨学生の募集について ……15
平成16年度修士・博士学位記授与者名簿……………8	平成17年度前期分授業料免除及び延納・分納について ……15
旭川での一年目……………桑鶴知一郎…………9	授業料未納による除籍について……………15
1年を振り返って……………島澤 明子…………9	新入生歓迎合宿のご案内……………16
1年を振り返って……………荒井 牧…………10	学生団体の設立・継続届について……………16
1年を振り返って……………黒木 慎…………10	窓外……………谷口 隆信…………16



卒業生を送るにあたって

旭川医科大学長 八 竹 直

この春めでたく医学士・看護学士の学位を取得される医学科第27期生101名ならびに看護学科第6期生71名の皆さんに心からお祝い申し上げます。

また皆さんは旭川医科大学が国立大学法人になって、初めての卒業生であり、我々教職員にとっても非常に感慨深いものがあります。

医学科では6年、看護学科では4年の間、学業や課外活動に励み、知識、技術、倫理観それに人間関係の大切さなどを十分に学ばれると共に多くの思い出も作られたことでしょう。これからは今までに得られたあらゆる事柄を活用して、社会に貢献されることを期待しています。

さて、ここ数年は医学・看護学教育の世界の変革が激しく、皆様方にも色々な影響がありました。医学科の皆さんは新カリキュラムがスタートした時に入学され、早期体験実習やチュートリアル教育が初めて実施されました。またクリニカル・クラークシップ制による臨床実習や僻地医療実習も始めて実施されました。

大学としては新しい教育方法へ情熱を持って挑戦してきたつもりですが、大学と学生双方の不慣れから、戸惑いや不満も多かったのではないかと心配していました。卒業後は昨年からはまった臨床研修制度に則り、研修を始められることになります。この制度も2年目に入り、色々な情報が得られて、落ち着いて対応できたのではないかと思います。これからはそれぞれの研修病院で臨床研修の実があがることを願っています。その後の後期研修に関する当大学の魅力的なプログラムを現在検討中ですので、近々公表したいと考えています。

看護学科の皆さんは新カリキュラム導入後2年目に入学され、この年から授業に対する学生の授業評価が導入されるなどの教育改革がありました。

このような医学・看護学教育の変革が求められる背景には医療の世界の激しい変化と社会からの様々な要求があるためです。

すなわち目まぐるしい医学の進歩によって、色々な高度先進医療が話題になる一方、不幸な医療事故の話題も多数報じられています。そのため、これらの高度先進医療を理解し、さらに発展させる高度な専門教育が求められる一方、社会は「ありふれた疾患をきちんと診断・治療し、緊急事態に対処できる医師」を求めているからに他なりません。また看護体制も大きく変化しつつあり、より高いレベルの医療と、それに伴う高いレベルのケアが求められています。現在の医学の進歩を理解しつつ、それに合った看護専門職として、常に高水準の質を備え持つことが要求されています。

いずれにしても、この春から皆さんは社会の中で、医療に携わることになります。非常に多くの知識や人間関係などを大学生活で学びましたが、現実の医療現場では戸惑いも多いことだろうと思います。そのような時には、あなた方がこの大学に入学した当時の気持ちを思い出してください。面接試験で、皆さん方は異口同音に「病んで苦しんでいる方の役に立ちたいから医療職を目指したい」と言われました。その気持ちは今も持ち続けていると信じていますが、今後はさらに人（人間）を好きになり、人（人間）を愛し、人（人間）を大切にすることが最も重要だということに思いを致していただきたいのです。とにかく若い内は病気の診断・治療または看護の方法などに目を向けがちになります。病んで苦しんでいるのは人そのものなのだとすることを常に忘れずに医療に精進してくださることを期待しています。

さて、先ほども述べましたように、今回の学位記授与式は国立大学法人旭川医科大学として始めてのものであり、式次第も一新しました。この学位記授与式が良い思い出になることを祈っています。卒業生の皆さんの今後ますますのご健康とご発展を心から祈念しています。



第27期生を送るにあたって

医学科第6学年担当 田中達也

医学科第27期生のみなさん、御卒業おめでとうございます。第5学年と第6学年の学年担当として、皆さんと苦楽を共にしてきた仲間として、心からお祝いの言葉を申し上げます。

皆さんも、この6年間に医学の勉強のみならず、それぞれ得られたものは数多くあることと思います。友情のすばらしさや、医学探求の奥深さ、臨床医学の難しさなどなど、自分の心に響くような、素晴らしい収穫が得られたことと思います。この経験をバネにして新しい研修の場で活躍していただきたいとおもいます。

医学カリキュラムの改革により、旧カリキュラムと新カリキュラムが混在する、不可思議なクラスを担当しました。しかも新カリキュラムによる関連病院研修が多かったためか、殆ど一同に会する機会がなかったことも、担任としての重要な責務が十分にできるかどうか心配しながらの2年間を過ごしました。しかし、携帯電話のE-mailの利便性には、感心させられました。殆どの場合、確実に全員の携帯にメールが届くことがわかり、体調の維持や、中だるみの予防法、休暇時の勉強法など、など、自分の子供が陥りやすいようなことを思い出して、先取りして連絡をさせていただきました。特に、追試を受けることになった数名の仲間とは、何回も面談して問題の解決法を共に考え、激励することにより、実際の追試では不可能を可能にするような頑張りを見せてくれたことが、とてもいい思い出です。昨年度から始まった、新しい卒後臨床研修制度では、皆さんはマッチングの結果など、心配することが多かったことと思います。しかし今年度は、母校の旭川医

科大学には、約20%の人しか残ってくれないことがわかり、とても悲しい気持ちです。もとより、隣の芝生は美しく見えるものですが、将来は母校にぜひ帰ってきていただきたいと思います。母校以外で卒後臨床研修を受ける皆さんも、旭川医科大学で学んだことを誇りに思い、新しい環境で、実力を十二分に発揮していただきたいと思います。医療は個人プレーでできるものではなく、医療スタッフとメディカルの協力と信頼関係の上に成り立ちます。学生時代は、自分の世界で自由に通用したことが多かったと思いますが、医師免許を取得したとたんに、患者さんを治療する責任ある立場に立たされるわけです。患者さん側から見ると、経験豊かな医師とあなたたちは同様にしか見えないので、一人前の医師としてあなたたちに助けを求めることになります。たくさんの患者さんの治療に携わることになりますが、この6年間で得られた有形無形の収穫を大切に、さらに新たな知識と経験の習得を一生続けてください。また、皆さんの懐かしい母校であり、臨床および基礎研究を国内や世界に発信している旭川医科大学をさらに発展させようと思う人は、後期卒後臨床研修や博士号取得のための基礎および臨床研究には必ず旭川に帰ってきていただけるものと確信しています。母校は、あなたたち卒業生をいつでも暖かく迎えてくれます。

最後に、卒業のはなむけの言葉を贈ります。「大切なことは、大志を抱き、それを成しとげる技能と忍耐を持つということである。」 ゲーテ。

(脳神経外科学講座 教授)



看護学科第6期生の卒業を祝う

看護学科第4学年担当 望月吉勝

第6期生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。これまでの大学生活を振り返り、感無量のことと思います。

学年担当と申しても、高校までのようなホームルームの時間は無いので、毎日決まった時間に皆さんと顔を会わせたわけではありませんが、第1学年の「公衆衛生論」と「健康教育論」、第3学年の「看護研究」、第4学年の「卒業研究」といった科目のほか、人によっては、廊下で小言幸兵衛にもなりました。

さて、ここ2～3年、学会で本学科の卒業生と再会できるようになり、とてもうれしく思っています。ことに昨年は、4月に保健師として働き始めた卒業生と7月と11月にも会えました。皆さんとは、いつ再会できるでしょうか。

これからの職場で、看護職としての力量を期待されるのは当然ですし、更に研究や問題解決の力量も期待されるでしょう。皆さんは、大学での4年間で、看護学の各科目の学習と並行して、情報系の科目と研究系の科目を学習し、さらに「卒業研究」で研究の計画・実施・分析・原稿執筆・プレゼンテーションという一連のプロセスを自ら体験しました。これらの期待に応える土台は出来ているはずです。もちろん、この後も研鑽を積んでいくことは必要ですが。

皆さんはケアの現場で、「なぜだろう?」「もっとこうしたら改善できるのでは?」といったResearch Questionの芽に気付くでしょう。その芽をResearch Questionとして明確にし、他者に理解してもらえるかたちにするには、知識とスキルが必要ですが、その土台は学んできたはずです。思い出ししてみましょう。

Research Questionの芽に気付くのは、何か質的に違うという印象からかもしれません。その時に「あなたがそう思っているだけでしょ」と一蹴さ

れないためには、その事柄を客観的に示さなければなりません。だが、それは一足飛びにできることではありません。客観化するトレーニングが必要です。そのためのステップとして、数量的アプローチ、特に質問紙を用いた調査研究が適していると思います。質問紙調査で得たデータを他者に理解してもらえるように、グラフや表に示し、更に文章化するわけです。

その際に統計解析ソフトは強力なツールです。例えば、関東の或る大学では、1年生がJMPという統計解析ソフトを電卓のように使って、半年ほどでデータのグラフ化や演算結果に基づいてレポートを書くという授業をしていて、レポートの実例付きの教科書が出版されているくらいです。とはいえ、こうした専用ソフトは或る程度高価であり、皆さんが情報処理実習室で使っていたSPSSが職場にあるとはかぎりません。サバイバル・ストラテジーとしては、表計算ソフトで手際よくこなせることを見せてから、「研究だけでなく、業務にも使えますよ」と甘言を弄して(?)、専用ソフトを職場に買ってもらいましょう。

たぶん、3年目研修といったかたちで、研究発表を担当するチャンスが巡ってくるでしょう。そして、どんなテーマにしようか、どう進めようかと、迷うこともあるでしょう。その時は、電子メールに添付ファイルという文明の利器を使って相談してください。いわば、アフターケアの特典付きです。

卒業はGoalではなく、新たなStartです。入学の年に贈った言葉をもう一度。

“ARS LONGA, VITA BREVIS.” 医術は深淵にして、これを極めるには時間がかかる、だから倦まず弛まず努力が大切。

(看護学講座 教授)

新カリキュラム初年度

医学科第27期卒業生 林 智 志



我々27期から旭川医大のカリキュラムは大きく変わった。チュートリアルが導入され、それまでの学年に比べて大幅に講義時間が減った。1コマの講義時間も100分から60分になった。授業内容も以前と異なるので、テストの時も先輩

からの情報をあてにできないことが多くあった。先が見えないのである。しかし、私は先が見えないということがかえってよかったように思う。先輩からの情報がない分、自分たちでどうするか考えていかなければならず、テスト対策にしても自分たちでやっていくほうが勉強になるからである。カリキュラムが変わるということは、それまでのカリキュラムを見直して悪かった部分が改正される可能性も高い。改正されて良いものになればそれを受ける我々はその利益を受けることができる。

また、チュートリアルの導入はそれまでの受動型の学習方法から能動型のものになるという意味で非常に良かったと思う。自ら勉強したものはすぐ忘れてしまわず記憶に残るものであるし、我々は医者になってからも生涯学習し続けなければならないので、自ら学ぶ姿勢を早い時期に身につけておくことは非常に大事なことからである。臨床実習でも内科や外科であれば、1か月という比較的長い期間にわたり実習に参加し診療チームの一員として学習するというクリニカルクラークシップが導入され、これも自ら学習する姿勢を身につけるのに非常に良かったと思う。

しかしこのカリキュラム改正が本当に良かったかどうかは我々が今後出す結果にかかってくる。それは国家試験の合格率などではなく、我々が医者として働き始めてから良い医療を提供できるかである。卒業後、我々はそれぞれが決めた病院で働くためそれを評価する方法はないが、我々一人一人がそのことを自覚して立派な成果を出していきたいものである。

卒業にあたって

医学科第27期卒業生 吉 田 充 彦



平成10年4月、僕は現役・1浪と2度の医学部受験に失敗し、他大学の構内を歩いていた。「あれだけ頑張ってダメだったのだから仕方ない」と自分に言い聞かせた。

新たな道を歩もうと模索していた6月のある日、大学構内で、その大学の医学部に進学した予備校時代の知人に偶然出会った。彼は僕に「あれ？どうしてここにいるの？」と言ってきた。「理工学部に入ったんだよね」と答えた。すると彼は「へえ、頑張ってね」とだけ言って別れた。彼は恐らく普通に「頑張って」と言ったのだと思うが、僕はその瞬間、何だか凄く「負けた」気がした。「何で一生懸命勉強して入学した大学・学部なのに、彼の一言で「負けた」気がしたのだろう」と考えた。そして僕の心の中に、まだ、「この学部ではなく、医学部に行って自分の夢を果たしたい」「もしこのまま卒

業したら、医学部に行けなかった事を一生後悔するのではないだろうか」と言う気持ちがある事を強く感じた。そこで両親にもう一度だけ受験をさせて欲しいと頼み、再び受験勉強をする事となった。

そして平成11年4月、旭川医科大学に入学した。旭川医大は現役生も多いが、浪人生や再受験生もたくさんいる。年齢・経歴のばらばらな、様々な考え方・生き方を持った、この同級生の中で6年間過ごしてきて、とても多くの刺激を受け楽しかった。彼らに出会えて本当に良かったと思う。

また、主に部活を通して先輩や後輩と接していく中で、人間的に大きく成長させてもらったと感じている。多くの事（人間関係や上下関係など）を先輩から学んだが、それを後輩に伝えていくのは難しく、教えが過度になってしまった事もある。失敗の都度、僕は反省し成長させられていった。この学校での経験を、今後出会うであろう多くの人達との関係に活かして行きたいと思う。

最後に、僕の再受験を許してくれた両親をはじめ、支えて下さった多くの方々にこの場を借りて感謝をしたい。ありがとうございました。

ここからがスタートなので、「頑張り」ます。

卒業にあたって

医学科第27期卒業生 ハリラティー バリザー



私はマレーシアから来た留学生で、日本に来て、約6年間が経った。6年間は意外と短い感じがし、気が付くと卒業式の近くである。

入学したばかりの頃、授業やチュートリアルで使われていた日本語の難しさは感じた。チューターや友達の相談にとっても追いつけな

い日々があった。先生達、先輩や友達と協力し、みんなと勉強する日々が始まった。その時の一番大きい支えとなったのは一、二年生時にお世話になった生物の上口先生だった。

恥ずかしい話だが、一、二年生に死んだマウスの解剖しかほとんど担当していない私にはやっと薬理学実習で生きたマウスの扱い、実験ができるようになった。基礎医学実習、そして5年生から始まる臨床実習では先生達や友達に巡り合え、とても楽しい学生生活を送ることができました。

旭医での生活、4年間連続、学祭の時、料理をし

ていた。International Restaurant でcurry-puffやcurry riceを中心に作っているESSの皆さんはよく頑張っていたね！後輩達もレシピなど探し、これからも学祭で美味しいメニューを作ってね。

確か、3年生の時に9月11日のアメリカでテロの事件が起こった。イスラム人の私、人間としてもとても心が泣いていた。事件の真相は誰も分かっていない。今も色々な結論が出るが、出る前に戦争が行われた。その近くにある友達が話しかけ、私達（イスラム人）が悪いような話をした人がいた。私の心はもっと泣いている。これからは心や考えたを変えて、イスラム教はテロではないのである。9月11日の後、アフガニスタン、イラク、パレスチナに対する戦争が許されているようなこの世界にもっと注目し、何とか平和を戻すべきである。私達は美味しく食べているのに人間としての権利を失う人々がいる。

最後に先生達、先輩達、同級生、後輩達、Simonや家族、ESSの皆さん、バトミントン部の皆さんに今まで色々支えてくれて、とても感謝している。どうもありがとうございました。皆さんの支えが無いと今日の私はいないと思う。マレーシアに帰って医療や医学の世界で力を尽くし、また、将来できれば国際的にも力になれる医者になりたいと考えている。

卒業にあたって

看護学科第6期卒業生 稲葉 美貴子



私が看護の道に足を踏み入れ、早4年。本当にあっという間でした。4年間を通して多くの人と出会い、その人間性に触れて、泣き、笑い、悩み、辛抱し、それまで以上に様々な感情に動かされながら過ごしてきました。大学生活には、「初めて」

がたくさんあって、その分戸惑うこともしばしば。しかし、そのような経験すべてが、自分を人間的にも、看護に志す者としても大きく成長させてくれたと思います。

これまでの大学生活を振り返ると、本当に多くの事を学びましたが、実習という実際の看護展開を通して得た学びは、非常に特別なものです。一人の患者様を前にして感じる緊張感に慣れるということはありません。しかし、患者様のベッドサイドでお話を伺い、会話を楽しんでいる時、自分が患者様に元

気をもらっていると感じることも多くありました。自らの無力さゆえに、行き詰まり悩んでいるときでも、患者様の前では自然に笑顔になっている自分がありました。また、臨床や地域で働く看護職の方々や先生のご指導を受け、患者様の気持ちや生活をありのままに見つめて受け止めること、病気を見るのではなく、個性ある人間をみることの大切さを学びました。そして、励まし合いながら、一緒に試行錯誤した友達がいたからこそ、辛いときでも乗り越えてこれたと思います。実習から得た多くの学びと喜び、大学生活で得た出会いは、自分の看護観を磨くとともに、人と人とのつながりはかけがえのないものであるという基本的なことを学ぶ上で、非常に貴重な体験でした。

卒業が目前に迫る今、国家試験に向け奮闘中ですが、残りの学生生活を楽しめたらと思っています。そして、大学で学んだこと、周りで支えてくださった方々への深い感謝の気持ちを忘れずに、新たな生活へ臨みたいと思います。厳しく温いご指導をしてくださった先生方、いつもそばで支えてくれた友達、両親、多くのお世話になった方々へお礼申し上げます。ありがとうございます。

卒業にあたって

看護学科第6期卒業生 水木 志保



この旭川医科大学に入学してからはや4年が過ぎてしまいました。この学校に入学してからあっという間だったと今私は感じています。それだけ充実した日々を送れたのではないかと思います。今振り返っただけでもこの4年間の思い出をたくさん

思い出してしまいます。

大学に入学したばかりのころは勉強についていくのとにかく必死でした。高校とはちがう大学の学習をどのように行えばよいのか戸惑うこともとても多かったです。私は要領が良いとは決して言えないタイプであるのでたとえ回り道をしてでも地道に努力していくしかないのだと年数を重ねるごとにだんだん自分のことがわかるようになりました。また、病棟実習では実際に臨床で実習させてもらうことで教科書では学ぶことのできない多くのことを学ぶこ

とができたのではないかとと思っています。今私の心の中に一番残っていることは全て自分の行っていることは目的を持って行っている、ということです。このことは絶対に忘れてはいけないことであると感じています。自分の目的を見失わずにいれば自分の行っている行動を常に振り返ることができるのではないかと考えました。また、人と人との関わりの中で思いやりの大切さを改めて実感しました。思いやりと一言で言ってしまうととても単純なようですが思いやりとはとても深いものであると思います。私は思いやりの気持ちを今後も忘れずに過ごしていきたいと思っています。

この大学4年間は私にとってとても貴重な時間であり、自分を成長させてくれた場所であったと思います。ここで学んだことを忘れずにこれからの生活にも生かしていきたいと思っています。

また、多くの人と出会い支えられてここまで来れたのだと実感しています。今まで支えて下さった方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

平成16年度 博士学位記授与者名簿

氏 名	課程・論文の別	学位記授与年月日
吉 田 将 亜	課程博士	平成16年 6 月30日
山 田 理 大	課程博士	平成16年 6 月30日
佐 藤 克 彦	課程博士	平成16年 6 月30日
横 濱 洋 也	課程博士	平成16年 6 月30日
小 山 聡	論文博士	平成16年 6 月30日
横 山 亜由美	論文博士	平成16年 6 月30日
大 西 浩 平	論文博士	平成16年 6 月30日
結 城 幸 一	論文博士	平成16年 6 月30日
羽 賀 将 衛	論文博士	平成16年 6 月30日
小野沢 司	論文博士	平成16年 6 月30日
佐 賀 祐 司	論文博士	平成16年 6 月30日
小 林 徹 也	論文博士	平成16年 9 月30日
千 里 直 之	論文博士	平成16年 9 月30日
岡 田 基	論文博士	平成16年12月24日
中 村 智	論文博士	平成16年12月24日
長 峯 美 穂	課程博士	平成17年 3 月25日
辻 ひとみ	課程博士	平成17年 3 月25日
趙 春 雷	課程博士	平成17年 3 月25日
井 澤 和 眞	課程博士	平成17年 3 月25日
玉 木 陽 穂	課程博士	平成17年 3 月25日
稲 村 純 季	課程博士	平成17年 3 月25日

氏 名	課程・論文の別	学位記授与年月日
細 木 弥 生	課程博士	平成17年 3 月25日
平 山 光 久	課程博士	平成17年 3 月25日
横 田 陽 匡	課程博士	平成17年 3 月25日
趙 亜 薇	課程博士	平成17年 3 月25日
太 田 貴 文	論文博士	平成17年 3 月25日
間 宮 規 章	論文博士	平成17年 3 月25日

平成16年度 修士学位記授与者名簿

氏 名	学位記授与年月日
細 野 恵 子	平成16年 9 月30日
市 川 ゆかり	平成17年 3 月25日
岡 本 和 佳	平成17年 3 月25日
松 本 舞 子	平成17年 3 月25日
小 山 満 子	平成17年 3 月25日
高 野 美奈子	平成17年 3 月25日
中 島 宣 昭	平成17年 3 月25日
三 宅 美恵子	平成17年 3 月25日
田 上 理津子	平成17年 3 月25日
井 田 里 見	平成17年 3 月25日
上 田 順 子	平成17年 3 月25日
山 口 佳 子	平成17年 3 月25日
松 田 哲 子	平成17年 3 月25日

旭川での一年目

医学科第1学年 桑 鶴 知一郎



3月22日の合格発表からもうすぐ1年がたとうとしている。大阪から北海道、受験生から医学生という大きな生活の変化に不安を抱きながら旭川にやってきた。生活、勉強に追われこの一年を思い返すこともなかったのも、これをいい機会として、旭川医大での私の過ごしてきた一年を紹介してみようと思う。

まず、旭川医大にきて驚かされたのは、学生の年齢層が非常に広いことだった。浪人生活をすることなく入ってくる学生から、一度社会にでて働かれたのちに再挑戦された方まで年齢でいうとこの学年でも十歳以上の開きがある。再受験した人達のなかでも、さまざまな分野からこの大学にきているので私の学年は個性豊かであり、非常におもしろい学年である。また、他の学年の方達ともさかんに交流があり、さらにこの大学の個性の豊かさに驚かされた。

つぎに、私が思ったのは、旭川医科大では実際の臨床に携わっておられる医師、研究に携わっておられる医師の方々との交流が密であるということであった。実際に現場で働いている医師が講義を行い、医大であつかわれている症例の紹介などを初学年から学ぶことができ現場での「医師・医学」を感じることができた。さらに、5月の早期体験実習では旭川近郊の医療施設での三日間の研修では本からは得られない、早い段階で現場の厳しさ、医療における信頼関係の重要性の一端を学ぶいい機会となった。また、そこでは旭川医科大学の地域の信頼が厚いということも、私が実習にいった施設の方々の反応から感じ、自分も旭川医大の学生であるという自覚を持たなくてはいけないと感じた。

今思い返せば1年足らずでも、ここでは語りきれないほど多くのことを体験し、学んだ気がする。これから厳しく、また豊かなこの自然に囲まれた旭川医科大学で、より多くのことを学び、体験することで医師への階段を着実にのぼっていきたい。

1年を振り返って

医学科第1学年 島 澤 明 子



4月。桜が満開の本州を離れ、まだ雪が残りストーブが必要な旭川に到着。入学式当日は体育館までひたすら走りました。5月末まで続いたチュートリアルIでは、非常に緊張していた記憶がありません。

5月。雪捨場の雪はまだ山でした。GWではっと一息。函館旅行をしてみました。北海道では桜とジンギスカンがペアであることを知りました。早期体験実習Iでは職員の方や入所者の方から様々なお話を聞き、実際にお手伝いさせていただくなかで、学ぶことが非常に多かったです。

6月。梅雨がない北海道ですが、たびたび雨が降りました。医大祭がありました。盛り上がっていました。月の後半にはラベンダーが咲きミツバチが飛び回る素敵な風景が大学構内でも見られました。

7月。後半は猛暑でした。口頭試問、中間テストがありました。みんな非常に勉強していました。

8月。短い夏休みが終わり旭川に戻ると、長袖が必要であることに驚きました。

9月。前期試験の月でした。この時期は晴天の日が多く爽やかでハイキング日和でしたが、ハイキングをする余裕はどこにもありませんでした。来年は早めに試験勉強を始めてハイキングに出掛ける余裕をもちたいものです。

10月。そろそろ冬です。後期の授業が始まり、みんなやる気に満ち溢れていました。22日頃に初雪が降ったようです。食料の買いだめをしておいて本当に良かったと思いました。

11月。滑る路面に怯える日々でした。やはり靴底は重要です。日暮れがとて早くなり、ピンクや紫の色鉛筆を手に夜は更けていきました。

12月。朝、「こんなに雪が積もっているのだから今日は休講かも・・・。」と思ってしまうのが非雪国出身者の哀しいところです。

1月。本州と変わらぬ長さの冬休みが終わりました。みんな元氣そうでなによりです。

一年を振り返って

看護学科第1学年 荒井 牧



私がこの大学に入学して、もう1年がたとうとしています。この1年は本当にあっという間に過ぎていき、見ることも体験することも新鮮なことばかりで、充実した毎日をすごすことができました。

前期は、新しい旭川での生活に慣れるので精一杯で、1日1日を楽しむ余裕すらありませんでした。授業の形式も学校の設備も、高校とは全くちがう環境でとまどっていたのを覚えています。勉強は、今思うと全然忙しくなかったと思うのですが「大学って大変な所だなあ」と感じていました。前期の試験は科目も多く範囲も広く、泣きそうになりながら毎日友達と学校で勉強していました。

後期は、気持ちにだんだん余裕が出てきて、部活の大会やイベント、毎日の生活を楽しめるようになってきました。部活では、練習以外でも車で遠出し

たり飲み会があったりと楽しい思い出ばかりです。だけど後期になって突然実習が増え始め、忙しさが倍増しました。実習が増えるということはレポートも増えるわけで、ためこんでしまう私は締め切りの前日は必ず徹夜でした。しかし、ハムスターの解剖や病院実習など、普通の大学に通ってはいけなかったことを体験することができて、とてもいい刺激になりました。

この1年は暇だと感じたことは一度もありませんでした。毎日何かしらの経験ができて、一人暮らしが寂しいと思う暇もなかったです。また、1年を振り返ってまわりの人に助けてもらいながら生活していることも実感しました。テストや実習があるとはげましてくれる先輩、勉強を教えてくれる友達、楽しく話せる友達がいたから、無事1年を過ごせたんだと思います。

残りの3年間、まだやりたいことや学ばなきゃならないことがたくさんあるので、じっくり1つずつこなして、充実した毎日をしていこうと思います。

一年を振り返って

看護学科第1学年 黒木 慎一



去年の四月、遠い南国・宮崎から北国・旭川にやって来て早くも一年が経とうとしています。入学当時は、初めての一人暮らしと慣れないこの地での生活など様々な不安でいっぱいでした。また、この大学での生活や新しい友人との出会いなど、多くの期待を持っていたことを覚えています。

この一年、色々なことがありました。今まで生きてきた中で最も印象深い一年になったと思います。講義では、医科大学だけあって解剖学や生理学などの専門的なことを学びました。また、看護に関する知識について学び、看護技術についても学びました。前期には主に看護の世界で生きていく中で基礎となる知識を、そして後期になると多くの実習に追われ多岐に渡る分野のレポートを書きました。特に印象

に残っているのは解剖実習で、実際に医学科二年生が献体を解剖しているところを見学させてもらい、様々な器官などについて説明を受け、それと同時に間近で観察できたことです。

僕は三つの部活に入っているのですが、それぞれの部活で多くの先輩方に出会い、多くの友人を作ることができました。その友人たちとレジャーなどに行き、この雄大な北海道の大地を共に満喫し楽しい大学生活を送っています。

これから病院実習も始まり、より専門的な看護に関する知識を得ることになるでしょう。そして、ますます看護の道を突き進むことになるので、今まで以上に積極的な姿勢で講義に参加し技術の練習にも気合をいれて行い、日々精進していきたいと思います。同時に、今まで築いてきた人間関係を大切に、また新たな人間関係を築いていけるように様々な活動に参加していきたいと思います。そして、この一年よりも更に印象深い一年を送れるように大学生活をenjoy!!していきたいと思います。

平成16年度学生表彰

◎学業成績が特に優秀な者

医学科第27期卒業生	濱本 英剛
医学科第27期卒業生	遠藤 文菜
医学科第27期卒業生	中島 範子
看護学科第6期卒業生	扇谷 歩
看護学科第6期卒業生	中谷 理恵
看護学科第6期卒業生	岡部いずみ
看護学科第6期卒業生	片平 陽子

◎課外活動で特に顕著な成果をあげた者等

田原 大地 (医2)

第11回全日本大学かるた選手権大会大学代表の部 準優勝
男子バレーボール部

第51回北海道地区大学体育大会 優勝

第47回東日本医科学生総合体育大会 優勝

ゴルフ部 (女子)

第47回東日本医科学生総合体育大会 優勝

松尾 彩 (医5)

第47回東日本医科学生総合体育大会ゴルフ個人 (女子) 優勝

本谷康二 (医1)

第51回北海道地区大学体育大会陸上競技男子走幅跳 第1位

榊原 学 (医4)

第47回東日本医科学生総合体育大会陸上競技男子1500m 第1位

第47回東日本医科学生総合体育大会陸上競技男子3000m障害 第1位

第77回北海道陸上競技選手権大会男子3000m障害 第1位

中内祐介 (医6)

平成16年度北海道学生テニストーナメント男子シングルス 優勝

◎社会活動で特に顕著な功績があった者又は団体

ESS

長峯美穂 (D4)

(学生課)

助 教 授 紹 介



内科学第三講座 助教授

鳥 本 悦 宏

本学昭和58年卒業の5期生です。

第三内科入局後は、消化器 (特に肝臓) の患者さんを中心に診ていま

したが、高後教授就任後は血液疾患の診療を始めて10年ほどになります。第三内科の血液・腫瘍グループはまだまだ新しいグループですが、昨年春の病棟再編に伴って立派な無菌室もでき環境面ではずいぶん改善されてきました。まだまだマンパワー不足の部分もありますが道北の血液疾患診療に貢献できるようがんばって行きたいと思っています。これからどうぞよろしくお願いいたします。



健康科学講座 助教授

今 井 博 久

本年10月1日より宮崎大学 (前宮崎医科大学) 公衆衛生学講座から健康科学講座に着任しました。専門は

ヘルスサービスリサーチです。現在力を入れている

テーマは病院管理分野ではDPC包括評価研究、医療管理分野では生活習慣病の疾病管理プログラムです。研究室からの景観が素晴らしく、大雪山の神秘的で雄大な姿を眺めると心が洗われます。附属病院と地域医療が抱える諸課題をヘルス・サイエンスの立場から微力ながら貢献したいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。



小児科学講座 助教授

伊 藤 善 也

この度、小児科学講座助教授を拝命しました伊藤善也と申します。

1984年に小児科の門を叩いてから、

2年弱を名寄市立総合病院に勤務した以外は本学に在籍し、内分泌の領域で活動して参りました。小児が置かれた環境は社会的にも環境面においても変貌しました。古典的な急性感染症は少なくなる一方で、社会や生活習慣に根ざす病的状態が世間を賑わしております。そのような中で自分に何が出来るかを見失わないで職責を全うしたいと存じますので、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

平成16年度

1 年 の あ ゆ み

- 3月26日 看護師国家試験合格発表
(本学合格者55名、合格率98.2%)
保健師国家試験合格発表
(本学合格者68名、合格率95.8%)
助産師国家試験合格発表
(本学合格者2名、合格率100%)

4月

- 5日 前期授業開始(医学科第5学年のみ)
9日 平成16年度入学式
医学科新入生 90名
看護学科新入生 60名
看護学科第3年次編入学生 10名



- 12日 前期授業開始(医学科第5学年除く)
14日 定期健康診断
19~20日 医学科・看護学科新入生合同研修会
(於 本学看護学科棟)



- 21日 定期健康診断
22日 医師国家試験合格発表
(本学合格者101名、合格率89.4%)

5月

- 12日 定期健康診断
19日 定期健康診断

6月

- 11~13日 第30回医大祭
医科フェスタ2004
19日 平成16年度医学科第2年次後期編入学生
選抜試験
30日 博士学位記授与式
博士学位記被授与者 11名

7月

- 1~12日 第51回北海道地区大学体育大会



当番大学：室蘭工業大学

本学参加種目：陸上競技(男女)、準硬式
野球ソフトテニス(男女)、ハンド
ボール(男)、バスケットボール(男
女)、バレーボール(男女)、サッカー
(男)、バドミントン(男女)、剣道
(男女)、弓道(男女)

成績：優勝 バレーボール(男)

第1位 陸上(走幅跳(男)：本谷康二)

第3位 陸上(100m, 200m(女)：井上朋美)

第4位 陸上(800m(女)：野崎綾子)

- 22日 平成16年度医学科第2年次後期編入学生
選抜試験

- 26日 オープンキャンパス

- 28日~ 第47回東日本医科学生総合体育大会
8月12日 (夏季部門)

総合主管大学：旭川医科大学

本学参加種目：陸上競技(男女)、準硬式
野球、テニス(男女)、ソフトテニス
(男女)、卓球(男女)、バレーボール
(男女)、バドミントン(男女)、サッ
カー、バスケットボール(男女)、剣
道、弓道、空手(男)、水泳(男)、ハ
ンドボール、ゴルフ(男女)、ラグ
ビー、空手(男女)

成績：優勝 ゴルフ(女)

バレーボール(男)

準優勝 バレーボール(女)

ソフトテニス(男)

第3位 剣道・弓道



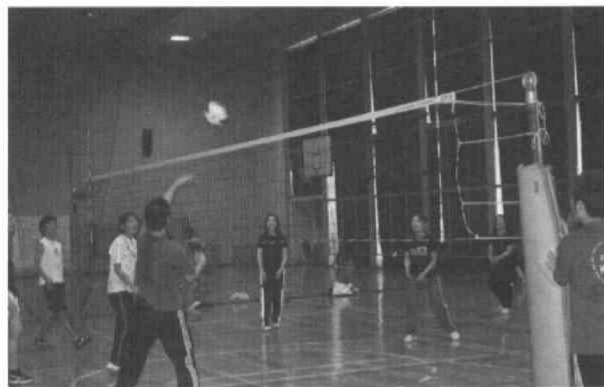
29日 平成16年度医学科第2年次後期編入学者
選抜試験合格者発表

8月

28日 音楽の夕べ
プラスアンサンブル、合唱部、ギター部、
室内合奏団による附属病院ホールでの合
同演奏会

9月

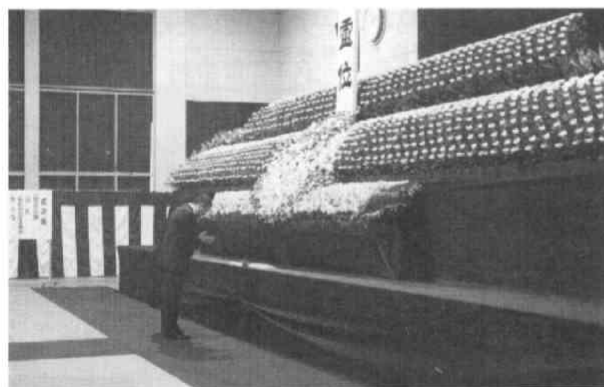
1日 体育大会（学生主催）



6日 防災訓練



22日 平成16年度解剖体慰霊式



30日 修士・博士学位記授与式
博士学位記被授与者 2名
修士学位記被授与者 1名

10月

1日 平成16年度医学科第2年次後期編入学生
入学式
2日 平成17年度看護学科第3年次編入学者選
抜試験
14日 平成17年度看護学科第3年次編入学者選
抜試験合格者発表

16～17日 平成17年度AO入試
23日 平成17年度大学院修士課程看護学専攻入
学者選抜試験

28日 平成17年度AO入試合格者発表
外国人留学生夏季オリエンテーション
（月形町 樺戸博物館 浦臼町）
参加者 留学生3名、留学生家族2名

11月

2日 平成17年度大学院修士課程看護学専攻入
学者選抜試験合格者発表
5日 本学記念日
27日 平成17年度推薦入学者選抜試験

12月

9日 平成17年度看護学科推薦入学者選抜試験
合格者発表
18日 室内合奏団、合唱部クリスマスコンサ
ート（附属病院）
21日 プラスアンサンブルクリスマスコンサ
ート（附属病院）
23日 ギター部クリスマスコンサート（附属病
院）
24日 博士学位記授与式
博士学位記被授与者 2名

1月

15～16日 平成17年度大学入学者選抜大学入試セン
ター試験
28～29日 外国人留学生冬季交流事業
（富良野スキー場、大雪青年の家）
参加者 留学生8名、留学生家族10名



2月

10日 平成17年度医学科推薦入学者選抜試験
合格者発表
平成17年度大学院博士課程入学試験
25日 平成17年度第2次試験（前期日程）
外国人留学生との懇談会及び交流会

3月

8日 平成17年度第2次試験（前期日程）
合格者発表
12日 平成17年度第2次試験（後期日程）
22日 平成17年度第2次試験（後期日程）
合格者発表
25日 平成16年度学位記授与式
学士学位記被授与者172名
（医学科101名、看護学科71名）
修士学位記被授与者12名
博士学位記被授与者12名

クリスマスコンサート

その1 室内合奏団 —今年もトップを切りました—
今年もトップを切ったのは、室内合奏団でした。

サンタクロースのスタイルで、弦楽四重奏による重厚な響きから軽快な演奏と、クリスマス音楽を楽しく聴かせてくれました。後半にはボーカルも交え、観衆を引き付ける巧みさをも披露してくれました。



その2 合唱部 —ムードをたっぷり—
同じ日の19時、日暮れてクリスマスムードがたっぷりになる時間に合唱部のコンサートが始まりました。この時間になったのは、他の病院でもコンサートを行っていたのです（練習場の黒板にスケジュールのメモが書いてありました）。より多くの患者さんにクリスマスの雰囲気をと、心意気を感じられました。

サンタクロースとトナカイの役を仰せつかった1年生たち、初々しく新鮮でした。これからも、頑張ってください。



その3 ブラスアンサンブル部

—聴き飽きさせない工夫—

患者さんの癒しには、楽しんでもらうのが一番。そのためには、自分達も楽しむのが一番。元気ではあるけれども騒がしくなく、はっきりと聴こえる演奏ではあるけれども、柔らかに音量を押さえていました。

マツケンサンバの踊りの登場は、にぎやか好きなこの部の面目躍如でした。



その4 ギター部 —今までのアンケートに答えて—
今まで患者さんのリクエストが多かったジャンルを中心に組み立てていました。ギターといえば、歌が付き物。そこで、フォークソング等を取り入れた工夫は、サンタ

クロースの衣装も帽子も用いないカジュアルなスタイルのまま、音楽そのものでクリスマス・ムードを十分醸し出しました。

また、流行の「冬のソナタ」のメインテーマは絶品でした。



外国人留学生冬季交流事業

平成16年度外国人留学生冬季交流事業が、1月28日（金）・29日（土）にかけて行われ在籍留学生10人中8人と、その家族10人、指導教員1人、職員3人の計21人が参加しました。

この事業は北海道の冬のスポーツ、スキーを通して雪や寒さの中での楽しみを知ってもらうと共に、留学生同士の交流や「青年の家」を利用する研修生の人たちとのふれあいを目的に、5回目の実施となりました。

旭川や近郊には数多くのスキー場がありますが、初級者から上級者までが満足できるところで大雪青年の家に比較的近いところ、となると富良野スキー場になります。曇り空と時折小さな吹雪が舞う天気でしたが、元気に楽しめたようです。

大雪青年の家では、いくつかの小さな団体同士でユースピア・タイムでは身近な感覚で団体紹介を交わすことができました。

大学院の研究室にすることが多く、留学生が一同に会するのも久しぶりなので交流会でも、大いに盛り上がりました。翌日は卓球、バドミントン等のスポーツを楽しんでいましたが、水泳を選んだ人たちは美瑛町のスイミングクラブの方々からコーチをしていただくなど、和気あいあいとした研修となりました。

（学生課）



各種保険について

本学が薦めている保険の概要は、下図のとおりです。

③ 学生・生徒総合保険 A・Bタイプ ※3階部分	
内容	傷害・損害賠償を24時間補償&針刺し事故を補償
補償金額	死亡補償金 Aタイプ 500万円 Bタイプ 300万円 対人賠償 Aタイプ 5,000万円 Bタイプ 3,000万円 対物賠償 Aタイプ 5,000万円 Bタイプ 3,000万円 針刺し事故の予防・治療費補償 1事故 500万円
掛金	学生生活のしおりを参照してください。
加入の是非	看護学科/医学科第1～4学年 任意 医学科5・6学年 全員加入(臨床実習のため) ※学生教育研究災害傷害保険及び医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)に加入していること。
② 医学生教育研究賠償責任保険(医学賠) ※2階部分	
内容	正課中、学校行事中、通学中に、他人にケガをさせたり、他人の財物を壊したことにより被る法律上の損害賠償を補償
補償金額	対人賠償 1名1事故1億円 対物賠償 1事故250万円
掛金	6年間 4,800円 4年間 3,200円※1年間800円
加入の是非	平成15年度以降入学者 全員加入 医学科5・6学年 全員(臨床実習のため) 医学科・看護学科第4学年 任意 ※学生教育研究災害傷害保険に加入していること
① 学生教育研究災害傷害保険(学研災) ※1階部分	
内容	正課中、課外活動中、通学中及び学校行事中に本人が傷害等の事故にあった場合
補償金額	死亡補償金 正課中 2,000万円 課外活動中 1,000万円 傷害補償金 正課中 治療日数4日以上から 課外活動中 治療日数14日以上から 入院 1日 4,000円
掛金	6年間 5,400円 4年間 3,900円
加入の是非	入学時全員加入 ※現在第3～4学年は正課中死亡時1,200万円

詳細については、学生課学生生活支援係にお尋ね願います。

本学では、学生諸君の学生生活及び日常生活に対して上図のような保険を用意して、加入を薦めております。

- ①学生教育研究災害保険(学研災)は、学生生活中に負った本人の傷害等の保険です。全員加入としております。
- ②医学生教育研究賠償責任保険(医学賠)は、学生生活中に他人から損害賠償を求められた場合の賠償補償保険です。新入生は全員加入としております。
- ③学生・生徒総合保険 A・Bタイプは、日常生活24時間をカバーする傷害保険と賠償補償保険です。加入は任意ですが、医学科5・6学年は臨床実習に備え全員加入としております。

博士学位記授与式

平成16年度修士・博士学位記授与式が、12月24日(金)午前10時から学長室において行われ、次の2名に博士(医学)の学位が授与されました。

博士(医学)

論文博士 岡田 基
中村 智

(学生課)

平成17年度日本学生支援機構奨学生の募集について

日本学生支援機構は、優秀な学生で経済的な理由で就学困難な者に学資を貸与しています。

本学では、日本学生支援機構からの推薦依頼に基づき、出願者の種々の条件を考慮して選考を行い、日本学生支援機構へ推薦します。ただし、日本学生支援機構では奨学金貸与の種別ごとに推薦基準が定められており、その資格があっても採用枠の関係で推薦できない場合があります。

申し込み方法はインターネット(スカラネット)による申し込みです。学生募集要項及び申し込み方法の説明会を4月11日(月)・12日(火)午後5時30分から第7講義室において実施します。希望者は集合してください。

なお、募集の時期以外に家計の急変により、学資の支弁に困難な事情が生じた場合は、学生課学生生活支援係に相談してください。

平成17年度 前期分授業料免除及び延納・分納について

平成17年度前期分授業料免除及び延納・分納を希望する学生で、免除基準のいずれかに該当すると思われる者は、学生課学生生活支援係から必要書類を受け取り、申請期間内に提出してください。

免除基準の概要はつぎのとおりです。

- 経済的理由で授業料納入が困難であり、かつ学力優秀と認められる場合
 - 授業料納期前6か月以内において学資負担者が死亡、又は風水害等の災害を受け、授業料納付が著しく困難であると認められる場合
- なお、このことについては、公用掲示板にも掲示してありますので確認してください。

また、不明な点は、学生課学生生活支援係に問い合わせ願います。

申請期間 在学生 平成17年3月31日(木)
(期限厳守) 新入生 平成17年4月13日(水)

※授業料滞納者の授業料免除申請は、受理できませんのでご注意ください。

授業料未納による除籍について

授業料を2期滞納し所定の期日までに納入されない場合には、除籍することとなります。

この取扱いは、平成17年度から適用されますので、平成17年4月1日において授業料を2期以上滞納している場合、平成17年9月30日をもって除籍となります。

以後授業料納期である6か月ごとに適用されますので、授業料の支払計画をきちんと立てるようご注意ください。

(学 生 課)

新入生歓迎合宿のご案内

新入生歓迎実行委員長 有馬 豊

皆さんご入学おめでとうございます。入学式の次の日から、つまり4月9日(土)10日(日)に新入生歓迎合宿がおこなわれます。その中の行事としては、学校で学校案内と部活紹介、そして場所を移しホテルでの新入生同士での合同合宿などと内容の濃いものとなっています。「ときや亭」にて行われる合宿では新入生同士での交流をはかるのはもちろん、乱入という様々な部活による部活動誘いもあります。

これに参加したことにより入学後すぐに仲の良い友達ができたり、入る部活を決めたりした先輩方も多いですよ。私たち新入生歓迎委員会は、新入生の皆さんが困ったこと、わからないことを全力でサポートします。参加は必須ではないですが、皆さん是非参加してくださいね！



窓 外

生化学第一講座
教授 谷口 隆 信

立春も近づき陽射しに力が加わって来ました。これが刊行される頃にはもう春が間近になっていると存じますが、毎年待ち遠しいことです。さて、昨年の12月に富士山麓の教育研修所で開催された医学教育ワークショップに参加し、その感想と報告をしたいと存じます。このワークショップは今回で31回目の歴史を持ち、1970年代から毎年開催され今回は臨床研修の義務化に伴う卒前と卒後の教育に一貫性を持たせて社会の要請により良かつ迅速に応えると言うことを念頭に、医学部・医科大学から20人、臨床研修病院から19人の参加者が、南は沖縄から北は旭川まで、集まりました。12/5から12/10まで、周囲に何も無い辺鄙な研修所に缶詰になって朝8:30から夜9時まで、地獄のワークショップというか鬼のような6日間でした。数人でグループになり与えられた課題に対して討議しレジメを作り発表すると言うことをやらされたのですが、内容が濃くあつという間に終わってしまった感があります。印象に残ったのは3点、教育学の基本は重要、富士山は美しい、日野原先生は矍鑠たるintellectual、です。

まず、カリキュラムを立案する際には6つのステップがありこれがサイクルになっていることを知りちょっと感動しました。第1段階はニーズ、即ち克服しようとする問題は何なのかを分析する、言い換えれば現状と理想のギャップを正しく捉えることになります。第2段階はカリキュラムにおける学習者のニーズを分析し最も効果

学生団体の設立・継続届について

平成17年度において、団体活動を継続しようとする学生団体または新しい団体を設立する予定の学生は、4月28日(木)までに設立届または継続届を学生課に提出してください。

なお、継続届の提出がない学生団体は、解散したものとして取り扱いますので注意してください。

(学生課)



的にギャップを埋めるにはどうすべきかを現実的に考える必要があります。第3段階ではそのカリキュラムにおける到達目標を設定し広汎な一般目標と個別的で測定可能な個別目標として記述します。第4段階では教育プログラムの内容を選択し個別目標を最も効率よく達成できる現実的な方略を厳選します。ここまでで一応カリキュラムの出来上がりで、第5段階で実際に実施し、第6段階で学習者とカリキュラム自体をそれぞれ評価し、最初に戻って無限ループを繰り返すことにより進化する時宜にかなったカリキュラムが行われることになるというものです、なるほど、。

次いで、太平洋側はこの時期冬型の良い天気のことが多く、頭を雲の上に出し白い帽子をかぶった富士山が常に窓外にあり、明け方一瞬の赤富士に接することもでき、冥土の土産が一つ増えました。夕映えの大雪山も美しいのですがこの時期見える頻度が少ないのが残念です。最後に、日野原重明先生、私の40年以上の大先輩なのですが、小1時間セミナーをされ、立ちづめにもかかわらず全くスキが無く、小さいお体が大きく見えてしまいました。

